

鹿児島県立与論高等学校 第五十七回入学式 式辞

春の陽射しが輝きを増し、新たな命の芽吹きを草木の緑から感じられるこのよき日に、ご来賓の方々や保護者の皆様のご臨席を賜り、鹿児島県立与論高等学校第五十七回入学式を挙行でありますことは、私たち教職員にとってこの上ない喜びであり、厚く御礼申し上げます。

ただ今、入学を許可した五十人の新入生の皆さん、入学おめでとうございます。本校の一員となつたことを祝福するとともに、在校生並びに全職員を代表して心より歓迎いたします。

保護者の皆様、御家族の皆様におかれましては、お子様の晴れの姿をご覧になり、感慨もひとしおのことと拝察いたします。心よりお祝い申し上げます。

さて、本校は、町民の方々の切なる願いの下に、昭和四十二年、県立大島高等学校与論分校として開校しました。昭和四十六年には県立与論高等学校として独立し、これを機に校章や校歌などが制定されました。

平成十二年には与論中学校との連携型中高一貫教育校の指定を受け、新たな歩みを刻みながら、一島一校の高等学校として、その役割を確実に担つてまいりました。

令和となつた新しい時代においても、よき伝統と爽やかで落ち着いた校風を継承しています。その本校で、新入生のみなさんが勉学や学校行事などに真摯に取り組み、充実した高校生活を送ることを期待します。

ところで、人工知能の急激な進化をはじめとする情報化やグローバル化が進展するこれから社会では、様々な事象が複雑

さを増し、変化の先行きを見通すことが一層難しくなっていきます。そのような時代を生き抜いていくみなさんに求められるのは、正解のある問題を速く正確に解いたり、定まった手順を効率的にこなしたりすることだけではなく、よりよい未来や新たな価値の創造に向けて、自ら課題を発見し、知識や情報を活用しながら、多様な人々と協働して取り組んでいくことができる力です。

大学受験や就職試験などに合格することが勉強のゴールではなく、その後の人生を主体的に生き抜くために自ら学び続ける力の土台を作ることが高等学校までの教育の重要な役割です。その土台となる力を育成するために、本校は全職員が一丸となって取り組んでまいります。

その本校では令和二年度から、「予測が困難な時代を主体的に生き抜く力をもつた生徒を育成する」ことを重点目標に掲げ、教育活動の充実・改善を図っています。本校はこの重点目標の「予測が困難な時代を主体的に生き抜く力」を次のように捉えています。

それは、「学ぶことの意義を理解し、未知の状況の中で、正解のない問い合わせに対しても、よりよい解決策を見出すために、多様な人々と協働しながら、粘り強く取り組もうとする力」です。体育館前方の右上に、本校の校訓「好学・創造・親和・不屈」を掲げています。この校訓は、先ほど述べた「予測が困難な時代を主体的に生き抜く力」に重なっています。

つまり、「好学」は、学ぶことの意義を理解することから始まります。「創造」は、未知の状況の中で、正解のない問い合わせに対しても、よりよい解決策を見出すこと。「親和」は、多様な人々と協働すること。「不屈」は、粘り強く取り組もうとする

力を意味します。

すなわち、本校の校訓「好学・創造・親和・不屈」は、これから時代を生きる若者に必要とされる「予測が困難な時代を

主体的に生き抜く力」を表すキーワードそのものなのです。

本校の草創期に校訓をつくった先達は、未来でも変わらずに必要とされる資質・能力を見据えていたと言つても過言ではありません。この校訓を具現化すべく、新入生のみなさんがたくましく成長することを願っています。

ここで、高校三年間が生涯の宝として大切なものになるよう、新入生のみなさんに心がけてほしい三つのことについてお話しします。

第一は、「自分や他者の生命を尊重すること」です。登下校など生活上の安全はもちろんのこと、自分の心の健康にも努め、他人への思いやりを大事にしてください。高校時代は悩みを抱え心理的に揺らぐこともあります。

そのようななときには是非、身近な人へ相談をしてください。

そして、家族や友人、先生方、地域の方々との繋がりはもちろん、目には見えないけれど、確実に繋がっている社会の多くの人々に思いを馳せ、自分の存在と生き方について考えてください。

第三は「凡事徹底」です。凡事徹底とは、「当たり前のことを徹底的に行うこと」で、徹底してやり続けることが最終的に非凡な結果をもたらすという文脈で使われます。WBCワールドベースボールクラシックで日本チームの中心となつた大谷翔平選手が、アメリカ大リーグで活躍する今でも、グラウンドに落ちているゴミを拾つてポケットに入れる姿はよく知られています。大谷選手は高校時代に定めた目標達成のために必要なことの一つとして「ゴミ拾い」を掲げています。それを継続していることがまさに「凡事徹底」であり、現在の非凡な結果につながる要因の一つだと言えるでしょう。

一晩だけ徹夜をしたり、新しいものを探しまわったりするだけの人には非凡な結果がもたらされることはありません。大切なのは、真剣勝負の瞬間を得るために備える準備を日々意識することです。

学びも同じです。規則正しい生活の中で、本を読んでじっくりと物事を考えるなどの時間を保ち、生活のリズムを維持することです。凡事徹底を貫く中で、自分の中に新しい引き出しを獲得していくほしいと思います。

第二は、「ワシランク上を目指すこと」です。「自分で育てるのは自分」であり、それは自分の大事な責任です。世界でただ一人の私を、どんな私に仕上げていくのか。その責任者は、みなさん一人一人です。だれもその責任を肩代わりすることはできません。「時間がない」「忙しい」「誰も教えてくれない」：：それが言い訳だとすれば、自分の大切な、そして唯一の責任

を放棄していくことになります。今の自分に満足せず自分をどのように高めていくのかを考え、試行錯誤を重ねてください。

本校は令和三年度から、中間考査や期末考査といった一定期間の学習内容をペーパーテストでまとめて評価する定期考査を廃止し、各教科がそれぞれの単元や題材のまとまりの中で、知識量を問うペーパーテストだけでなく、プレゼンテーションやレポート、作品制作などを含む多様な方法で評価する仕組みに改めました。

つまり、一時間一時間の授業がこれまで以上に真剣勝負になるのです。毎日の授業や予習・復習、読書などにおける凡事徹底を通して、興味・関心を広げるアンテナの感度を高め、自分が進むべき道を見つけてください。

高校生活の三年間は長い人生にあつて、ほんのわずかな時間に過ぎません。しかし、最も多感で、生命力に溢れ、人生を大きく左右する貴重な時期でもあります。志を高く掲げ、一日一日を大切に過ごしてください。

保護者の皆様、御家族の皆様に一言申し上げます。私たち教職員一同は、生徒一人一人が充実した高校生活を過ごし、大きく成長するために全力で指導してまいります。そして、三年後に「与論高校で学んでよかったです」と実感していただけるよう全力で支援します。

そのためにも学校と家庭がそれぞれの役割を果たし、連携を密にしていくことが重要であると考えます。保護者の皆様におかれましては、本校の教育方針について御理解いただき、御協力をお願ひいたします。

終わりに、新入生のみなさんの活躍を心から期待するとともに、本校の教育活動に対し、日頃から温かい御理解と御支援を頂いているすべての皆様に感謝を申し上げ、式辞といたします。

令和五年四月七日

鹿児島県立与論高等学校
校長 甲斐 修

